

大分市歴史資料館

OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

ニュース

vol.
108
2015.1.10



地中に納められた銅矛【猪野遺跡】

テーマ展示

Ⅲ

大分市
歴史資料館



掘った!

OITA CITY
HISTORIC SITES

出た!

市内の遺跡

Dug!

Unearthed!

1月10日(土) ~ 3月29日(日)

掘った!

OITA CITY HISTORIC SITES

出た!

市内の遺跡

Dug!

Unearthed!

1月10日(土) ~ 3月29日(日)

毎年、市内の各所で遺跡の発掘調査が行われ、地域の歴史やそこに住んだ人々の暮らしぶりなどが明らかにされてきています。

今回の展示では、こうした遺跡の中から特に新聞で話題となった出土品や遺跡を紹介します。

① 猪野遺跡	「2000年前の銅矛出土」 「弥生時代の銅矛出土」	2013. 6. 29 2013. 6. 29	朝日新聞 西日本新聞(ほか)
② 大道遺跡群	「古墳時代の脱穀機?」 「役所用の土器『厨』の文字」	2008. 10. 21 2009. 1. 4	大分合同新聞 大分合同新聞
③ 羽田遺跡	「大型の羽釜 鑄型出土」 「状態良好な羽釜鑄型」 「仏具の鑄型も出土」 「新たに梵音具の鑄型出土」	2011. 2. 18 2011. 2. 18 2011. 3. 3 2011. 3. 3	朝日新聞 毎日新聞(ほか) 朝日新聞 毎日新聞(ほか)
④ 大友館跡	「青磁の器台の破片」 「元代『青花』の破片」	2008. 7. 26 2011. 10. 1	大分合同新聞 大分合同新聞
⑤ 府内城・城下町跡	「静けさ 一滴落つる」 「光西寺で水琴窟発掘」 「幼稚園から不発弾!?」	2012. 10. 19 2012. 10. 30 2011. 7. 22	毎日新聞 読賣新聞 朝日新聞



大分市歴史資料館
テーマ展示No.00

猪野遺跡 地中に納められた銅矛

弥生時代後期



保存処理された銅矛

猪野遺跡は、鶴崎台地上にある弥生時代中期から後期を中心とした集落遺跡です。

この銅矛は、中広形銅矛と呼ばれる弥生時代後期頃のもので、穴の中で刃を斜めに立て、発掘現場周辺にはない黄色い土で固定した状態で埋められており、祭祀(さいし)行為が行われたものと考えられます。このように埋めた当時の状態のまま見つかることはめずらしく、九州では4例目です。北部九州を中心とした銅矛祭祀が大分でも受け入れられたことを証明する重要な資料です。

大道遺跡群 完全な形で見つかった木製の臼

古墳時代初頭



保存処理の前に製作された臼の複製品

大道遺跡群は、大分駅の南側に広がる遺跡で、特に古墳時代初め頃と奈良・平安時代を中心とした遺跡です。

この木製の臼は、古墳時代初め頃の井戸跡から見つかりました。年代測定などの分析の結果、西暦290年頃に樹齢107年のクスノキを伐採して作られていることがわかりました。この時代の臼がほぼ完全な形で出土した例は、全国的にもめずらしく大変貴重な資料です。

大道遺跡群 「厨」と刻まれた土器 - 刻書土器 -

奈良時代



小壺の底、写真左側に「厨」の文字

ホルトホール大分周辺は、奈良・平安時代の大型の建物群や大規模な溝跡、奈良三彩や帯金具などがみつかり、古代の役所に関わる重要な場所であったと考えられています。

この刻書土器は、溝跡から出土したもので、「厨」は、役所の中で食事を担う施設で、役人をもてなした所です。この文字は焼く前に小壺の底に刻んでいることから、役所用の備品として作られたことがわかります。



羽釜鑄型・外型の口型(羽釜の口の部分)



羽釜鑄型・外型の尻型(羽釜の底の部分)

羽田遺跡 平安時代後期

大型羽釜の鑄型を発見

羽田遺跡は大分川右岸、下郡遺跡群の南側に位置する縄文時代後期から現代に至る複合遺跡です。

羽釜の鑄型などの鑄造(ちゅうぞう)関連遺物は、滝尾公民館近くの市道の拡幅工事に伴う発掘調査で見つかりました。平安時代末の羽釜の上下(口型と尻型)の鑄型(外型)がそのままの状態で見つかったこと自体、全国的にも例を見ない大変貴重なことです。大型の羽釜は、寺社で湯立ての儀式などに使われる特別なもので、「鑄物師(いもじ)」と呼ばれる専門の技術者によって製造されたものと考えられます。

羽田遺跡 平安時代後期

仏具「磬」の鑄型も発見

羽釜の鑄型以外にも、儀式などで音を鳴らすために用いられる「磬」と呼ばれる仏具の鑄型も見つかりました。磬の鑄型は2個見つかり、表面と裏面の対となるものです。鑄型の側面には、縦方向の線による合わせ目の印があり、表裏ピッタリと合致します。

この他、金属を溶かして鑄型に流し込むための溶解炉や送風管なども見つかり、見つかった鑄型の製品はその場で作られていたことがわかります。大型羽釜や磬はともに特別なものであり、周辺にそれらを使用するような寺社、あるいは有力者の存在が想定できます。



磬の鑄型・左側が表面 右側が裏面



磬の鑄型・目印で重ねた状態

大友氏館跡 大友氏の繁栄を伝える陶磁器

戦国時代



青磁の器台・酒海壺・鉢



元代の青花梅瓶

大友氏館跡は、豊後府内町の中央に位置する大友氏の守護館です。現在も史跡整備に向けて確認調査が実施されており、その過程で大友氏の繁栄を物語る重要な遺物が見つかりました。1つは器台や酒海壺(しゅかいこ)といった青磁の特殊品です。もう1つは中国元代の青花(せいか)梅瓶(めいびん)です。これらは、戦国時代においてすでに骨董品であり、戦国大名は床の間などの室内飾りとして好んで収集しました。全国的にみても出土例は希少で、これらを手に入れるには、豊かな経済力や交易ルートの確保が必要とされました。大友氏は、朝鮮貿易や南蛮貿易などを介して様々な文物や富を得ており、これらの陶磁器はその盛んな貿易を今に伝えています。

府内城・城下町跡 涼しげな音色を奏でる水琴窟

江戸時代

府内城・城下町跡は、江戸時代府内藩の中心であり、現在の大分市中心市街地の骨格となっています。江戸時代の面影は各所に残っており、慶長年間に城下町南西隅の裏鬼門に当たる広大な敷地に建てられた光西寺もその一つです。道路建設に伴い江戸時代の光西寺境内推定地を調査したところ、建物跡や池・庭園跡などがみつかり、当時の光西寺の様子が明らかになってきました。中でも庭園跡から見つかった水琴窟からは、静かな境内で甕の中に落ちる水滴の反響する音を楽しんだ僧侶らの風流な暮らしがうかがえます。



水琴窟に利用された陶器の甕

府内城・城下町跡 不発弾発見? 近代の花瓶

近代の花瓶



間違えられた花瓶

幼稚園の園舎の建替に伴う発掘調査中に、焼けた土の中から不発弾らしきものが見つかりました。戦時中、中心市街地は空襲により焼け野原となっており、不発弾ではないかと一時騒然となりましたが、その後、陶器製の花瓶であることが判明しました。このように発掘調査では、日々様々なドラマが繰り広げられています。



銅矛の出土状況



臼の出土状況



刻書土器の出土状況(近景)



羽釜の出土状況



磬の出土状況(近景)



酒海壺の出土状況



水琴窟の出土状況



水琴窟の出土状況



水琴窟の出土状況

歴史資料館来館者100万人達成！！

平成26年7月26日(土)に大分市歴史資料館は、来館者100万人を達成しました。当日100万人目の来館者となった古川徳太郎さんとご家族には、足立一馬教育長から花束と記念品、ふれあい歴史体験講座を1年間無料で受講できる年間フリーパスポートが贈呈されました。

当館は1983年に大分市総合計画にもとづく豊後国分寺跡整備事業の一環として建設が発案され、5カ年の準備の後、1987年4月に開館しました。以来27年間大分市の歴史を総合的に学習する場として、毎年多くの方々に活用していただいています。

当館では、旧石器時代から近代までの市内の遺跡からの出土品や、歴史資料等により大分の歴史を通史展示する「常設展示」のほか、所蔵資料を中心にした「テーマ展示」、大分に関わる資料を全国から集めて展示する「特別展」などの企画展示を行っています。また、考古、歴史、民俗・文化史、古文書の4コースで大分に関する歴史を解説する「ふるさとの歴史再発見講座」や、勾玉やはにわ、土偶などを作る「ふれあい歴史体験講座」など家族や友人と楽しめる各種の講座も随時開催しています。

今後も、郷土の歴史や文化を後世に伝えていく発信拠点として、子どもから大人まで歴史に興味・関心をもってもらえるようにさまざまな企画を考えていきたいと思えます。



来館者100万人達成記念式典のようす

利用案内

■開館時間 9時から17時(入館は16時30分まで)

■休館日 月曜日 但し祝日の場合は開館
但し第1月曜日は開館し、翌火曜日が休館日
祝日の翌日 但し土・日曜の場合は開館
年末年始 12月28日～1月4日

■観覧料 大人200円(団体150円) 高校生100円(団体50円)

中学生以下 無料 ※団体は20名以上
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。
◎入館時に受付で手帳を提示してください。

■交通機関

・JR久大本線
豊後国分駅下車 徒歩2分
・大分バス[国分新町ゆき]
歴史資料館入口下車 徒歩5分
・大分自動車道
大分I.C・光吉I.C.よりともに約15分

ふれあい歴史体験講座

■定員 各回70名程度(先着順)
■時間 午前の部 9時30分～(約2時間)
午後の部 14時00分～(約2時間)

	実施日	内容	材料費	受付開始日
第14回	1月24日(土)	勾玉作り	200円	1月7日(水)
第15回	2月7日(土)	土偶作り	180円	1月20日(火)
第16回	2月21日(土)	折り紙雛作り	300円	2月5日(木)
第17回	3月7日(土)	粘土はにわ作り	230円	2月19日(木)
第18回	3月21日(土)	勾玉作り	200円	3月5日(木)

■心費 上記の受付開始日より、電話にて応募ください。
(大分市歴史資料館:097-549-0880)

テーマ展示解説講座

■内容 講座室でテーマ展示Ⅲ「掘った!出た!市内の遺跡」について、スライドなどで解説した後、展示会場を案内します。

■日時 2月1日(日) 14時～15時30分

■参加費 無料 ※事前の申し込みは必要ありません。

★上記の各講座等の参加者は観覧料が無料になります。

特別展記念講演会

特別展会期中の11月9日(日)、首都大学



東京人文科学研究科研究院教授の山田昌久氏をお招きし、「実験考古学で考える縄文人と弥生人の生活」の演題で記念講演会を開催しました。

講演会では、縄文時代や弥生時代に実在した道具を復元し、それらを使って木材の加工や木製品等の再現を行い、当時の人々の技術や生活の実態にせまるといふ、緻密な先生独自の実験考古学の研究成果にまつわるお話に、参加された56名の方々は大変興味深く聞き入っていました。



記念講演会風景

発行日:平成27年1月10日

発行:大分市歴史資料館 〒870-0864 大分市大字国分960-1 TEL097-549-0880 FAX097-549-5766

※大分市ホームページの「観光・魅力>歴史・文化財>歴史・文化を学ぶ>大分市歴史資料館」も併せてご覧下さい。

(http://www.city.oita.oita.jp/)